

◎ よもよも原稿 H28.4~9月

月	赤ちゃんから		ちいさなお子さんから		ちいさなお子さんから	
4		『だるまさん』 かがくいひろし/さく ブロンズ新社 「だるまさん」が「どてっ」だるまさんが「ぶしゅーっ」あかて、まあいだるまさんが、表情豊かに、いろんな動きをしてくれます。言葉にあわせて、体を揺らせば、赤ちゃんも大喜び！平成28・29年度の朝倉市ブックスタート絵本の1冊です。		『こぶたほいくえん』 なかわりえこ/ぶん やまわきゆりこ/え 福音館書店 まきばにうまれたこぶたのきょうだい。まきお、はなこ、ぶんたは、まいにちまきばをかけまわり、ふざけるやらいたずらするやらおおさわぎ。ある日、そんな三きも、ほいくえんにいくことになりました。さあ、ほいくえんでの一日はどうだったのかな？		『はじめまして』 新沢としこ/作 大和田美鈴/絵 鈴木出版 「はじめまして」は、出会ってはじめのごあいさつ。ネコさんゾウさんピアノさん、どうぞこれからよろしくね。みんなにも「はじめまして」で、新しいおともだちが、たくさんできるといいね！
5		『ぞうさん』 まど・みちお/詩 にしまきかやこ/絵 こぐま社 「ぞうさん ぞうさん おはながながいのね♪」だれもがきたことのある童謡をにしまきかやこさんの絵で、あかるくえがいています。みるだけであたたかな気持ちになるえほんを、ぜひうたいながら、ゆーっくりよんでみてください♪		『おかあさんのパンツ』 山岡ひかる/作 絵本館 わたしのパンツ、おかあさんがはくどうなるかな？わたしのさくらんぼのパンツ。おかあさんがはくと、りんごになっちゃった！それじゃ、ちゅーちゅーねずみのパンツ。おかあさんがはいたら？クイズとしてもたのしめますよ。		『おかん』 平田昌広/ぶん 平田景/え 大日本図書 「なあおかん」「なんや」「えんえんつづふたりのかいわ。おかんはこたえるだけでもうたいへん！でもそれがたのしくてしかたがないんです。関西弁でのかいわが、おもしろい！ごいっしょに「おとん」の絵本もどうぞ。
6		『めんめん ばあ』 長谷川撰子/文 柳生弦一郎/絵 福音館書店 「めんめ いらないい」をしているかえるが、つぎのページで「ばあーっ！」。「めんめ いらないい めんめ いらないい」つぎは、だれがでてるかな？		『ゴリラのおとうちゃん』 三浦太郎/作 こぐま社 「なあ おとうちゃん あそんで～や」ゴリラの子どもがおとうちゃんにおねだりすると、おとうちゃんはからだをつかった「すべりだい」や「ひこうき」してくれて…。からだをつかったふれあいあそびのほんです。		『ぞうくんの あめふりさんぽ』 なかのひろたか/作・絵 福音館書店 あめふりでもごきげんなぞうくん。さんぽにでかけます。かぼくんといっしょにいけのなかへもばしやばしやばしや。ところがだんだんふかくなってきて…。きょうは、おめふり。さんぽにでかけよう！
7		『くろねこかあさん』 東君平/さく 福音館書店 「くろねこかあさんあかちゃんうむよ」さてなんびきうまれるのでしょうか。白と黒しか使われていないのに、なぜかあたたかいえほんです。ことばのくりかえしやみじかい文ではなしがすすんでいくので、リズムをつけてよむといいです。		『ノラネコぐんだん おすしやさん』 工藤ノリコ/作 白泉社 まわるおすしやさんをつみつけたノラネコぐんだん。どうにかしておすしをたべようとこっそりすべりだいをつくります。でもとちゅうでたべられてしまい、だいしばい。さてつぎは？いつもおこれらちゃうノラネコぐんだん。はんせいしてるんですか？ニャー！		『おおきなスイカ』 庄野ナホコ/作 講談社 ねこのルッキオとフリフリは二人で暮らしています。夢はおおきなおやしきに住んで、マグロのおさみをたべること。ある日、庭でおおきなスイカをつみつけた二人はスイカを売ってマグロを買おうと思いつきますが…。
8		『もこもこもこ』 谷川俊太郎/作 元永定正/絵 文研出版 「しーん もこ もこもこ によき」なにもないところから「もこ」とでてきたよ。「によきによき」大きくなると「ばく」と「もぐもぐ」たべられて…。ことばのリズムがたのしいえほんです。		『やまのおんがくか』 水田詩仙/訳詩 鈴木幸枝/構成・絵 ひさかたチャイルド やまのどうぶつたちが、たのしいおんがくかいはじめよう！うたにあわせてページをばたばたうごかすと、どうぶつがえんそうしてくれるよ。うたいながらたのしめるしかけえほんです。		『これは やま』 五味太郎/作・絵 岩崎書店 ちょっとそこまでピクニックというやま。ひとがぼつぼつすんでいるようなやま。いろいろなやまがでてくるよ。つぎはどんなやまがでてくるかな？「これはやま」とつづいていく、ことばあそびのたのしいえほんです。
9		『あーあー』 三浦太郎/作 童心社 「もーもー」っていったらうしさん。「ふーふー」してスープをさします。「じーじー」っていったらじーじーが「にっこりえがお。」「ばーばー」もにっこりえがおになりました。あかちゃんとおはなしできてたのしくなることばが たくさんです。		『ほくのおじいちゃん』 マルタ・アルテス/作 よしいかずみ/訳 BL出版 だいすきなおじいちゃん。いっしょにおはなししたり、あそんだり。だけど、だんだんとしをとって、ときどきほくのことわざれちゃう。でもやっぱりだいすきなおじいちゃん。やさしいきもちがうれしいえほんです。		『もと ともも』 富安陽子/作 いうひろし/絵 ポプラ社 ほくのおじいちゃん、もたたく。でももつとまえは、もとともも。おばあちゃんだっておかあさんだって、もとともも。あれ、もしかしてみんな、もととももの！？おじいちゃん、おばあちゃんのことものときってどんなだったのかな？

◎ よもよも原稿 H28.10月～H28.3月

月	赤ちゃんから		ちいさなお子さんから		ちいさなお子さんから	
10		『えんやら りんごの木』 松谷みよ子/文 遠藤てるよ/絵 信成社		『どん!』 西村敏雄/作・絵 金の星社		『むしたちのおんがくかい』 得田之久/文 久住卓也/絵 童心社
		「めがでてふくらんではながさいて みがなってあかくなったら だれにやろ♪真つ赤に熟れたおいしそうなりんごの実、だれにあげましょか? りんごの木の苗が大きくなったら…夢がひろがるわらべうた絵本です。		いつでもどこでも「どん! どん! どん! 」と元気な、たいこのどんとちゃん。お友達に会うと、たいこを「ど～ん! どんが ど～ん! 」とたたいてごあいさつ。どんなピンチも「どん! どん! どんまい! 」となんのその。 今日はどこへおでかけかな?		公園で音楽会をすることにしたむしたち。しかし、人間たちの出す音が大きすぎて演奏が聞こえませんが、困ってしずかな場所を探しにいこうとしたむしたちは、ぶじに音楽会ができるのでしょうか?
11		『あっあつあつ、みーつけた!』 徳永満理/ぶん 垂石真子/え 童心社		『ぼけぼけぼっぼ』 藤本ともひこ/著 ハッピーオウル社		『モラッチャホンがきた!』 ヘレン・ドカティ/文 トーマス・ドカティ/絵 光村教育図書
		「あっあつあつ」ってゆびをさしているともちゃん、なにをみつけたかな? あかいボールや、にやーにやーねこちゃん、みつけて「みーつけた! 」ってするの、すごいのしい! いろいろなものをゆびさして、さわって、たくさんあそんでね。		あれあれ? はっぱのなかになにかかくれているよ。ふーってはっぱをふいてみて! いろいろなどうぶつがでてくるよ。 赤や黄色のはっぱがきれいで楽しい絵本です。実際に公園ではっぱをひろってやってみると楽しいですよ。		どうぶつたちのすむむらでは、みんなおやすみまえのおはなしのじかん。あつちのいえでもこつちのいえでも、みんなおはなしをよんでもらっている。 ところがある日、だいじん本が消えちゃった! うさぎのエリザは犯人さがし。 モラッチャホンって悪い子なの? 『おおきいサンタとちいさいサンタ』
12		『さんさんさんかく』 得田之久/文 織茂恭子/絵 童心社		『くまのクリスマス』 高橋和枝/作 小学館		『おおきいサンタとちいさいサンタ』 谷口智則/作・絵 文溪堂
		あかいさんかくと、みどりのさんかくが、びたつとくっついて大変身! ぶちぶちぶつちん、甘いくだものな～んだ? いろいろな色や大きさのさんかくが組み合わせさって素敵なものになります。		今年、くまの家族は冬眠せずにクリスマスをしようと、眠いのを我慢して準備を始めました。ツリーやケーキの用意はできたけれど、まだ何か足りない気がしたお父さんぐまは…		小さいサンタのもとに大きくなってがみが、大きいサンタのもとに小さくなってがみがおくれてとどきました。てがみにかかれたおねがいをかなえるために、はじめて2人はちからをあわせることに…。
1		『びよびよびよ』 平野剛/さく 福音館書店		『こけこっこー』 林木林/作 西村敏雄/絵 すずき出版		『かわいいめんどり』 木島始/さく 羽根節子/え 福音館書店
		ひよこが「びよびよびよ」とあるいていきます。どこにいくのでしょうか? たくさんのひよこたちが「びよびよびよ」くろいこねがみえています。でもだいじょうぶ。ちゃんとおかあさんのところへたどりつきました。「びよびよ」という音と色をたのしんでくださいね。		「こけこっこー! 」あさにわとりくんがなぐともりのみんながおきてきて、いちにちがはじまります。ほかのとりにたちはにわとりくんがうらやまして、かわってもらうことにしました。まずは、すずめくんが「こけちゅんちゅん! 」さあ、みんなおきてくれるでしょうか。		かわいいめんどりはきれいなうさぎ。おそうじ、せんたく、ぬいもの、あみものなんでもできます。あるひ、かimotoにかけためんどりを、きつねがつかまえてふくろにとじこめてしまいますが… かわいくてかしいめんどりのうたうたうたうたうたうたうたうたのしいえほんです。
2		『まんまん ぱっ!』 長野麻子/さく 長野ヒデ子/え 童心社		『まめの かぞえうた』 西内ミナミ/作 和歌山静子/絵 すずき出版		『あずきまる』 早川純子/さく・え 農山漁村文化協会
		「まんまん ぱっ! 」「ばいばい ばいばい! 」ぐるぐるぐる～ん! あかちゃんの声に出しやすい音とカラフルな優しい絵の絵本です。ページをめくると少しずつ変化していく絵を、親子で触れ合いながら楽しめます。		「ひとつ、ふたつ…」数をかぞえるたびに豆が育っていきます。さやから出てきた豆たちは、ころころと逃げていけれど、どうなるかな? 節分の豆まきのあとに家族みんなで読みたい絵本です。		あずきまるは、モジャモジャたぬきに大事にそだてられ、丸くてピカピカでつやつやしています。姿のいたそっくりさんにたべてもらいたいとモジャモジャたぬきのもとから旅たとうとするあずきまる…。せつかくおいしく食べようとしてたぬきは知恵をはたらかせます。
3		『だるまさんの』 かがくいひろし/さく ブロンズ新社		『めがねうさぎ』 せなけいこ/作・絵 ポプラ社		『「ごめんなさい」がいっぱい』 くすのきしげのり/作 鈴木永子/絵 PHP
		「だるまさんの め! 」ではじまるたのしいえほんです。4ヶ月のブックスタートで紹介している「だるまさんが」のシリーズで、あかちゃんにも大人気! だるまさんといっしょにみぎ、ひだりにゆれながら、よんでみてください。		うさこは、めがよくみえないのでめがねをかけることにしました。するとみんなからめがねうさぎとよばれるようになりました。ある日、山にめがねをわすれてしまったうさこは、暗い夜の山にめがねをさがしにいこうとしたのですが、そこにおぼけがあらわれて…		ふうちゃんはわたしのいもうと。わたしはいもうとがだいすきだけど、できないことがおあって、ついおこってしまう。するとふうちゃんはいつも「ごめんなさい! 」っていうんだけど、すぐに「ごめんなさい! 」っていわれるとなんだかなくなってしまうって。

◎ よもよも原稿 H28.4~9月

月	ていがくねんから		中学年から		高学年から	
4	 <p>『いちねんせいのはる・なつ・あき・ふゆ』 おかしゅうぞう/さく 佼成出版社</p> <p>うれしいのしい1ねんせい。小学校ではどんなことがあるのかな？ はるは入学式や身体測定。なつはプールに夏休み、あきは運動会、ふゆになったら…？わくわくすることがいっぱいだね！</p>	 <p>『はじめてのほしぞらえほん』 てづかあけみ/え 村田弘子/文 バイインターナショナル</p> <p>天気の良い日の夜。空をみあげてみよう！ 真っ暗な空に、たくさんの星がみえてくる。星って、どのくらい遠くにあるの？どんなふうにも動くの？流れ星ってどんなの？お家の人と一緒に読んで、春の星空を楽しもう！</p>	 <p>『ヒーロー&ヒロインに会おう！ 古典を楽しむきっかけ大図鑑』 齋藤孝/監修 日本図書センター</p> <p>ヒーローやヒロインって、アニメの世界だけじゃないよ。昔の日本のお話(古典)にもたくさんいるんだよ！日本を作った神様や、若君に救い出されたお姫様などの楽しいお話を、イラストでわかりやすく紹介している本です。</p>			
5	 <p>『だめだめママだめ！』 天野慶/文 はまのゆか/絵 ほるぷ出版</p> <p>とつぜんママがだめだめママに！ ちらかして家の中はめっちゃくちゃ。みずたまりにもへいきではいっちゃ。いつも「だめだめ！」っていうママにぼくが「だめだめ！」って言わなくちゃいけないの??</p>	 <p>『おかあさん、げんきですか。』 後藤竜二/作 武田美穂/絵 ポプラ社</p> <p>おかあさんはいつももうるさい。ぼくはもう4年生なのに、車にきをつけるとかへやをかたづけるとか。母の日だからって、てがみなんて書けないから、言いたいことを書きます。あんまり心配しないでね、おかあさん。</p>	 <p>『お母さん取扱説明書』 F.M.ソンジン/作 キム・ジュンソク/絵 吉原育子/監 金の星社</p> <p>ヒヨンスの家にお母さんがやってきた。組み立てると命を宿す「パイオイ」のおもちゃだから、取扱説明書をよく読まないといけない。でも一緒にくらししていくうちにどんどん心がめげなくて、本当のお母さんみたいになってきて…</p>			
6	 <p>『うめじいのたんじょうび』 かがくいひろし/作 講談社</p> <p>きょうは、うめじいのたんじょう日。うめじいは、きょうでいくつになるのかな？ たくあんやらつきょうなど漬物の仲間たちでうめじいのたんじょう日をお祝します。パッパパー スデーうめじい♪</p>	 <p>『きらきらは・は・歯』 室井滋/文 長谷川義史/絵 世界文化社</p> <p>ヨシオの家族はみんな歯がよくていて、トラブルつづき。となりのケント君の家族はきらきらの歯で、みんな幸せそう。ある日、とうとうヨシオは歯がいたくなってケント君のパパといっしょに歯医者へ行くことに…。虫歯予防にオススメの本です。</p>	 <p>『からくり夢時計』 川口雅幸/作 アルファポリス</p> <p>聖時の家は時計店。ある日、不思議な時計の鍵を手にしたことで12年前にタイムスリップしてしまい、そこにはやんちゃ盛りなお兄ちゃんや夢にまでみたお母さんがいて…。家族とのかけがえのない時間を描いたファンタジー小説です。</p>			
7	 <p>『こたらちゃんの冒険』 石井桃子/お話 深沢紅子/絵 河出書房新社</p> <p>こたらちゃんはトラになりたいのです。いつかなれと信じています。だからパーペルをもちあげ、体をきたえています。ある日動物園に行ったこたらちゃんは、本物のトラに会うのですが、いったいどうなることでしょう。</p>	 <p>『ネコツメのよる』 町田尚子/作 WAVE出版</p> <p>みてください、この悪い顔。なにかたくらんでいるとしか思えないネコの顔です。でも大丈夫。人に悪いことをするわけではありません。ネコだけが知っていてネコだけがわかる不思議な夜が始まるのです。ほら「ネコツメのよる」がきましたよ。</p>	 <p>『もしもねこがしゃべったら…？』 クロード・ロワ/作 石津ひろ/やく 海谷泰水/え 長崎出版</p> <p>ある日トマスの猫ガスパールは、自分が話せるということに気がつきました。話せることを秘密にしたいガスパールはトマスに腹話術のふりをしようともちかけます。ガスパールの歌う詩がとても楽しい読み物です。</p>			
8	 <p>『やまのぼり』 さとうわきこ/作・絵 福音館書店</p> <p>森のみんなと山のぼりに行きたいばばあちゃん。でも、遠くの山に行くにはみんなのものもつがいっぱいで…。困ったばばあちゃんの思いついたらめいあんとは？ 「ばばあちゃんのおはなし」シリーズの一冊です。</p>	 <p>『やまびこポスト』 山崎克己/作 BL出版</p> <p>へんてこなねこが、富士山の形をしたやまびこポストをかついでやってきた！必ずプレゼントが当たるというので、プレゼントの応募はがきをポストに入れると本当に当たってびっくり！ほくはやまびこポストをひとりじめしよう…。</p>	 <p>『富士山うたごよみ』 俵万智/短歌・文 U.G.サトー/絵 福音館書店</p> <p>日本一の山、富士山。富士山と一緒に日本の四季を感じよう！五・七・五・七・七の短歌でつづられた自然の風景や小さなできごとが、季節に合わせた富士山の奇想天外な絵と一緒に楽しめる絵本です。</p>			
9	 <p>『ほしじいたけ ほしばあたけ』 石川基子/作 講談社</p> <p>ほしじいたけとほしばあたけは、きのこたちときのことむらにすんでいます。ある日こどものきのこが崖の下に落ち、ほしじいたけは助けに行きました。わかがえったほしじいたけとほしばあたけのすがたにご注目！かっこいいですよ。</p>	 <p>『かみなりじいさんとぼく』 みぞぶちまさる/作 講談社</p> <p>かみなりじいさんは大きな声でどなるし、とても怖い。だけどもある日元気がなくなった。どうしたのだろう？ 庭の柿の木の思い出とともに、おじいさんのこどものころのお話がいきいきとわたられます。</p>	 <p>『四人のおばあちゃん』 ダイアナ・ウィン・ジョーンズ/作 野口絵美/訳 佐竹美穂/絵 徳間書店</p> <p>エルグとエミリーの兄妹にはおばあちゃんが四人いる。留守番にやってきたおばあちゃんたちと妹に、いろいろ言われて嫌になったエルグは魔法の機械をつくるのですが…。四人のおばあちゃんの個性が楽しい読み物です。</p>			

◎ よもよも原稿 H28.10月~H28.3月

月	ていがくねんから		中学年から		高学年から	
10		『こんくんの おんがくはっぴょうかい』 たしうちさと／作		『オーケストラの105人』 石谷時子／訳 ガーファカスギン／作 マーク・サイモント／絵		『よみがえる二百年前のピアノ』 佐和みずえ／著
		講談社 「はやくあきにならないかなあ。」 きつねのこんくんは、秋がくるのを待っています。秋になると遠い北の国から渡り鳥がやってきて、音楽発表会と一緒にできるからです。なかなかやってこない渡り鳥に、こんくんはなかよしのみんなど秋を探しに行くことに…。		すえりブックス 105人のひとが仕事に出かけるたくをしていますが。お風呂に入り、黒と白の服を着て、「いってきます」と出かけるその先は…？ オーケストラの人たち、舞台上に集まるまでの秘密をのぞいてみよう！		くもん出版 このピアノは、二百年前、ベートーベンやショパンの生きていた時代に演奏されていました。ぼろぼろになって、ひもや紙でぐるぐるに包まれた、まるでミラのようなピアノに、新しい命をふきこんでくれたピアノ修復家のお話です。
11		『スコットくん と ポワロくん』 ファイリケえつこ／さく		『サッカク探偵団』 藤江じゅん／作 ヨシタケジンスケ／絵		『夢にめざめる世界』 ロブ・ゴンサルヴェス／作
		あすなる書房 きょうはポワロくんのおたんじょうび。おともだちのスコットくんはポワロくんのほしいものを3つもっておいおいに行きます。でもしょうたいたいように書かれたほしいもの3つがなにかかわらない。 みんなも一緒に考えて、ポワロくんのお誕生日会(ひんがひ)にもっていきな。		KADOKAWA サッカク探偵団は、サッカクでトリックを推理する！ 小学4年生のカケルのまわりで事件がおきる。クラスの仲間たちとサッカク探偵団を結成したカケルは、錯覚をみやぶって事件を解決できるのか！？ いろいろなか錯覚トリックがでてきて楽しい読み物		ほるぶ出版 ふしぎな絵です。じつとみていると上も下もわからなくなります。宇宙と地球が近くて遠く、想像の世界がひろがっています。 「その世界では…」から始まることばが心地よい、奇妙な世界を感じてみませんか？
12		『すみれちゃんのすてきなプレゼント』 石井睦美／作 黒井健／絵		『グレグのダメ日記 どうかしてるよ！』 ジェフ・キニー／作 中井はるの／訳		『クリスマスツリー』 吉村和敏／著
		偕成社 12月、すみれちゃんの家にはアドベントカレンダーがやってきました。すみれちゃんとかりんちゃんはじゅんばんに1から24までの数字のシールを一日一枚めくることに…。毎日がとくべつでときどきの12月のおはなしです。		ポプラ社 クリスマス前にバカなことをすると取り返しのつかないことになる、とびりびりしているグレグ。グレグはいい子で無事にクリスマスを迎えられかな？少年のおかしな日記で、元気をチャージ！		アリス館 手作りのオーナメントを飾ったかわいらしくあたたかみのあるツリー。まるで流れ星が降り注いでいるかのような幻想的なイルミネーションのツリー。写真からは家族みんながそろう、お祝いする賑やかな雰囲気が伝わってきます。
1		『にわとりのおっぱい』 山本省三／作		『ケイゾウさんは四月がきらいです』 市川宣子／さく さとうあや／え		『カンテクレール』 ヨール・ツ／作 フレート・フツセルス／作 エルレイセ／絵 久保谷洋／訳
		講談社 小学1年生のきょうしつではみんなでにわとりの絵をかくことになりました。「にわとりのおっぱいあったっけ？」だれかの問いに、みんながかんがえます。たくさんみんなでかんがえて、本物のにわとりを見にいこう。さてさてどうかな？にわとりにおっぱいあったかな？		福音館書店 ようちえんで飼われているにわとりのケイゾウさんは、いろいろなのがきらいです。とくに四月にやってきたうさぎのみみこのことがきらいません。なのによちえんのみんなは、みみこのことばかりかわいがります。ケイゾウさんとみみこの会話が楽しい読み物です		朝日学生新聞社 おんどりのカンテクレールは朝、自分が声をあげてかないとおひさまが昇らないと信じています。森の仲間たちにうさぎがられても知らんがり。しかしある日キジに恋をして、そのキジから朝ないはいけなと言われてしまっ！
2		『ヘルシーせんたい ダイズレンジャー』 やぎたみこ／作		『ジャックと豆の木』 ジョン・シェリー／再話／絵 おびかゆうこ／訳		『まめめくくん』 デヴィッド・カリ／文 セバスチャン・ムーラン／絵 ふしみみさを／訳
		講談社 いそぶらの国に「大豆禁止令」のおふれが出ました。おふれをやめさせようと、畑から大豆たちはお城へむかいます。お城では、お殿様が大豆の悪口ばかり。おこった大豆たちは力を合わせて変身します。ダイズレンジャーの誕生です。ダイズパワーでみんなの健康を守ろう！		福音館書店 ふしぎな男から、牛と引きかえに魔法の豆を手に入れたジャック。豆は男の言った通り、天までとどく大きな豆の木になりました。のぼっていくと、ジャックは雲の上に大きな家を見つけました。はらべこなジャックは食べ物を分けてもらおうとしますが、そこは人食い鬼のすむ家です…。		あすなる書房 まめめくくんは小さな男の子。ベッドは、マッチ箱や猫の上。小さくても車の運転だっておてのもの。なんでもできた。そう、学校へ行くまでは…。学校で自分がものすごく小さいことを知ったまめめくくん。何をすることも小さすぎた。けれど…。小さなまめめくくんから勇気もらえる絵本です
3		『めがねがなくてもちゃんとみえてるもん！』 エリック・パークレー／作 木坂涼／訳		『めがねなんか、かけないよ』 レイン・スミス／作 青山南／やく		『月夜とめがね』 小川未明／作 高橋和枝／絵
		ブロンズ新社 ページはちょっと変わった女の子。スカンクをねこっていうし、こくぼんの字もみえてないみたい。でもみんなが「みえてるの？」って聞くとぜったい「みえてるもん！」っていう。ほんとはめいしやさんがこわかったんだって。たくさんめがねから自分に似合うめがねをさがせるかな		ほるぶ出版 さてさて、このめいしやのせんせいは とっても変なんだけど。ほくが「めがねはいやだ」って言ったら、みんなかけてるって。おとうさんも、えらい学者も、星もぞうも、みーんな。そしてとんでもない秘密をおしえてくれたんだ。しかたない、めがねがかな。		あすなる書房 月のきれいな春の夜のこ、おはあさんがひとり針仕事をしていて、外から声がきこえてきました。それはめがね売りの男で、おはあさんはびつたりのめがねを買いました。しばらくするとまた外から声が。今度は女の子がたっていたのです。